

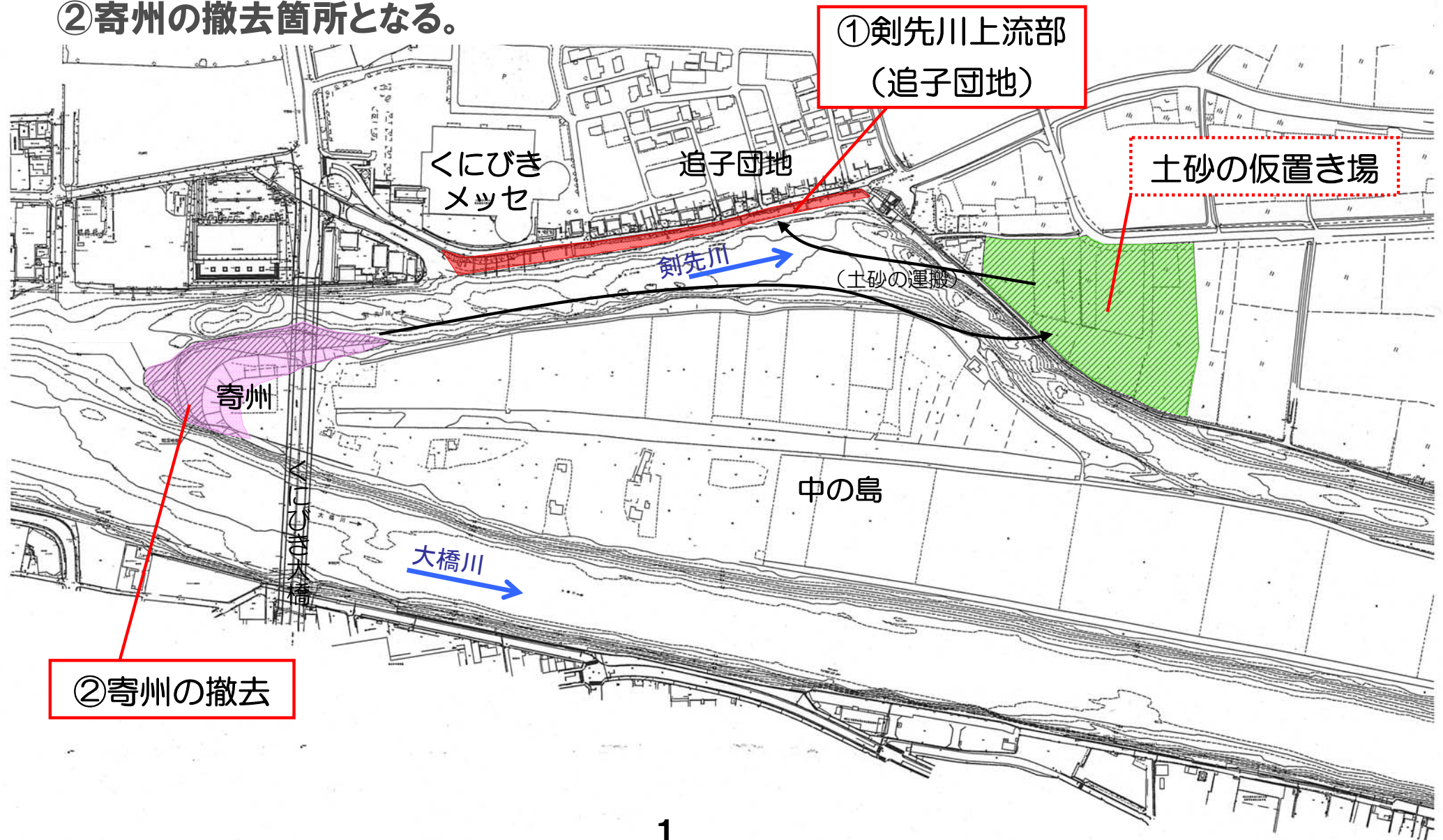
第3回

大橋川改修事業に係る環境モニタリング協議会

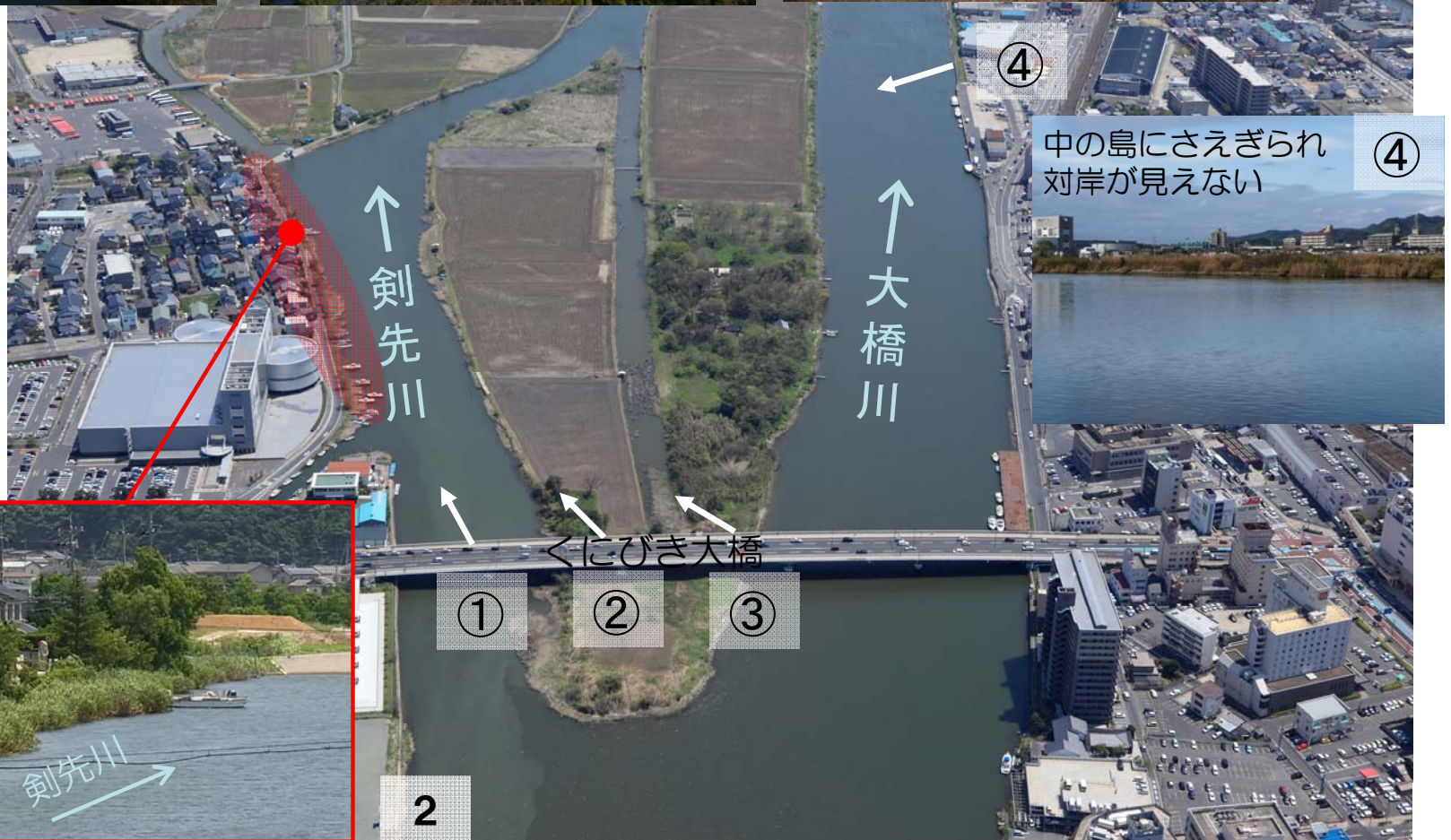
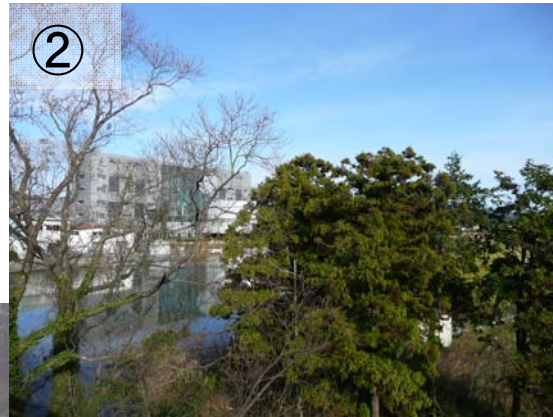
工事モニタリング

平成23年 7月 4日

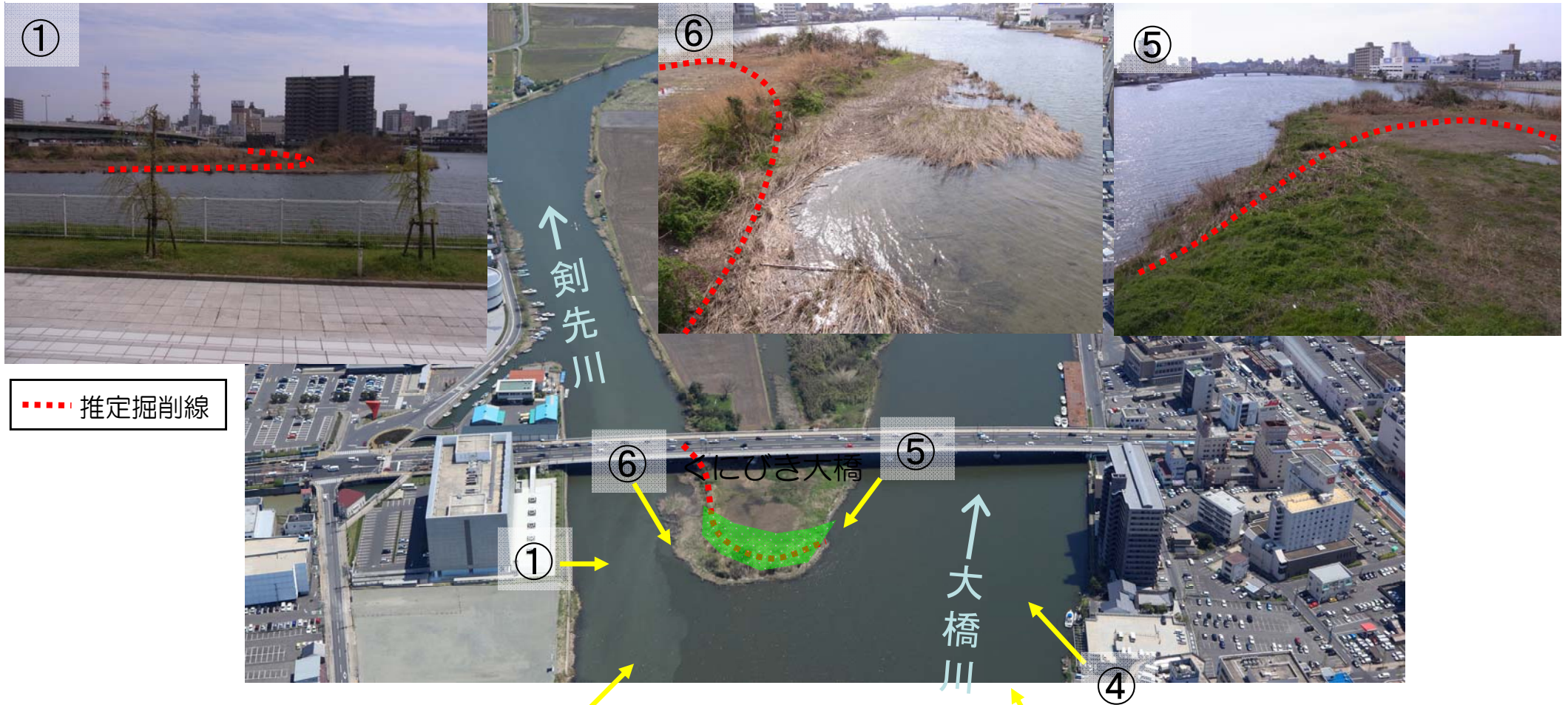
- ◆ H23年度の工事箇所は、剣先川上流部(追子団地)の築堤護岸、築堤護岸施工に伴い撤去が必要となる寄州及び土砂の仮置き場である。
- ◆ このうち、工事モニタリングの実施箇所は、河川内である①剣先川上流部(追子団地)と②寄州の撤去箇所となる。



◆ 剣先川上流部の背後地は住宅地であり、水際にはほぼ全面にヨシ帯がある。



◆ くにびき大橋付近の寄州は、堆積土砂の水際部分にヨシ帯がある。



- ◆ 剣先川上流部(追子団地)及びくにびき大橋付近の寄州において、工事着手前の環境保全措置対象種の現地調査を実施した。なお、剣先川上流部のコアマモは前年度に実施済みである。

調査で確認された種

分類	種名	調査場所		備考
		剣先川上流部(追子団地)	寄州	
動物	ヒトハリザトウムシ	百個体以上	数十個体以上	調査はH23年6月上旬～中旬に実施
	ムシヤドリカワザンショウガイ	(数個体)	数個体	
植物	オオクグ	パッチ状	パッチ状、群生	(※剣先川上流部のコアマモはH22年7月下旬に実施)
生態系	コアマモ群落	パッチ状	主にパッチ状	
		ヨシ群落	約1900m ²	約1400m ²



ムシヤドリカワザンショウガイ



4

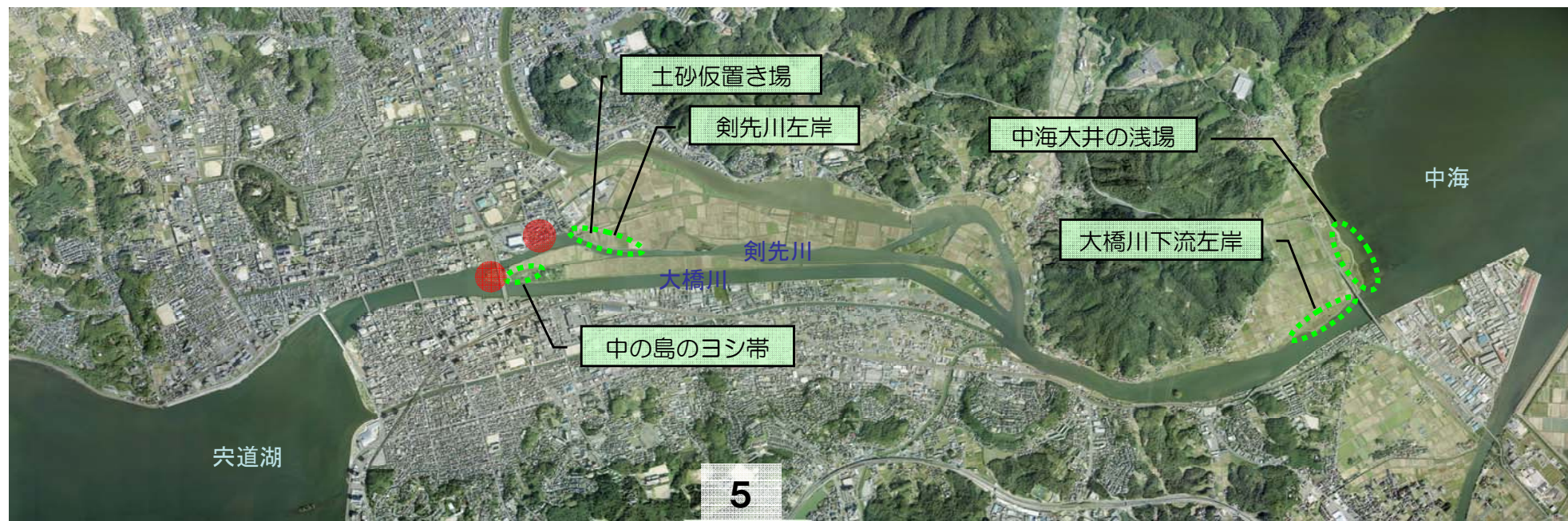
ヒトハリザトウムシ



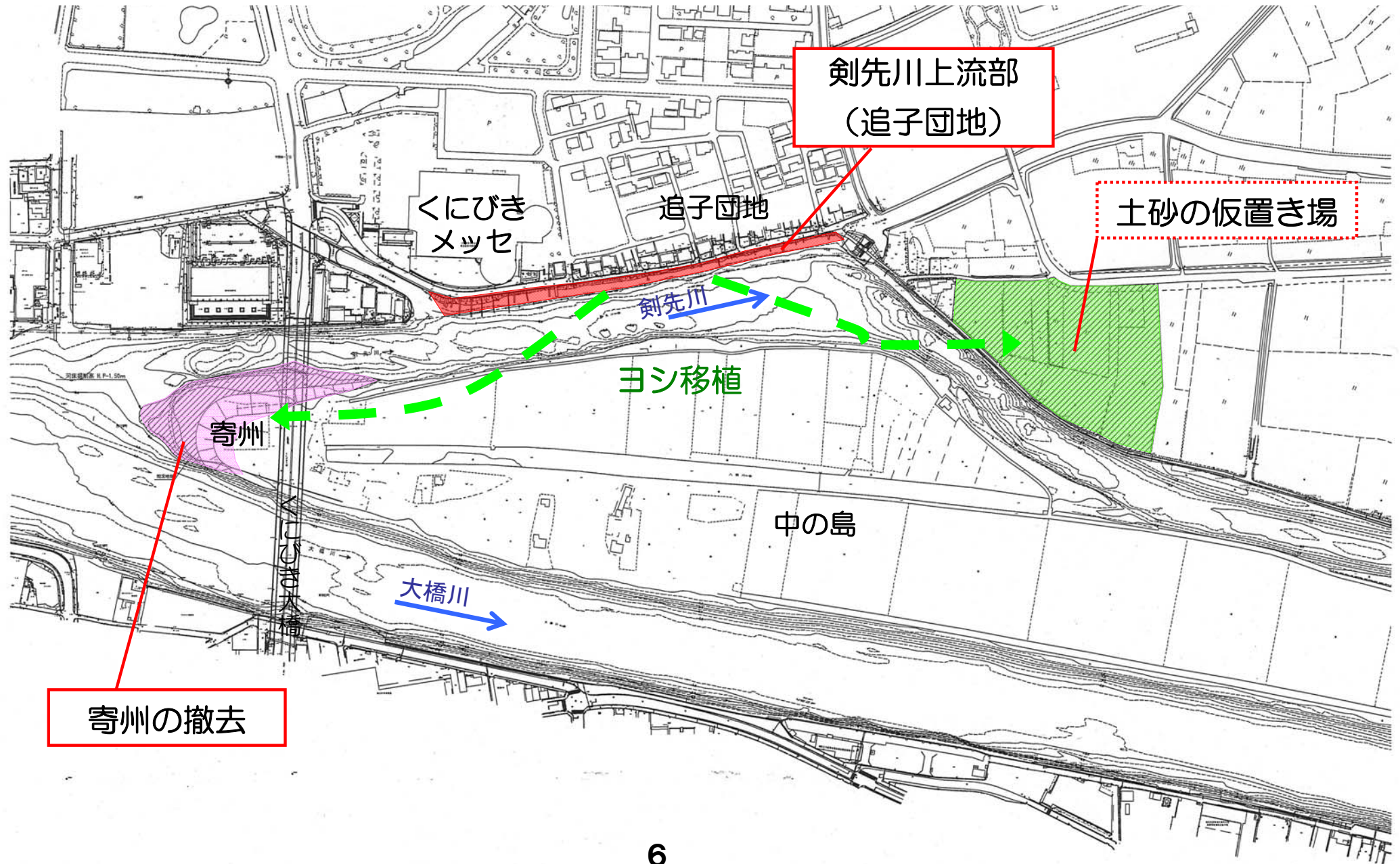
オオクグ

剣先川上流・寄州で確認された種の環境保全措置（案）

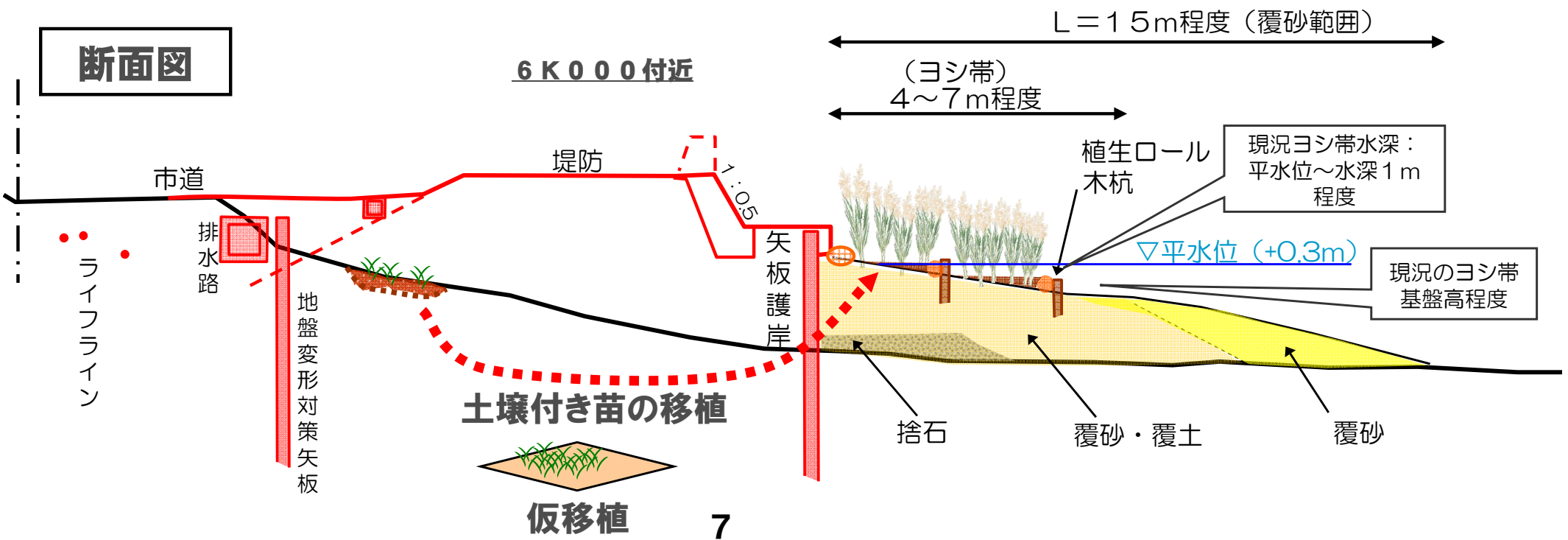
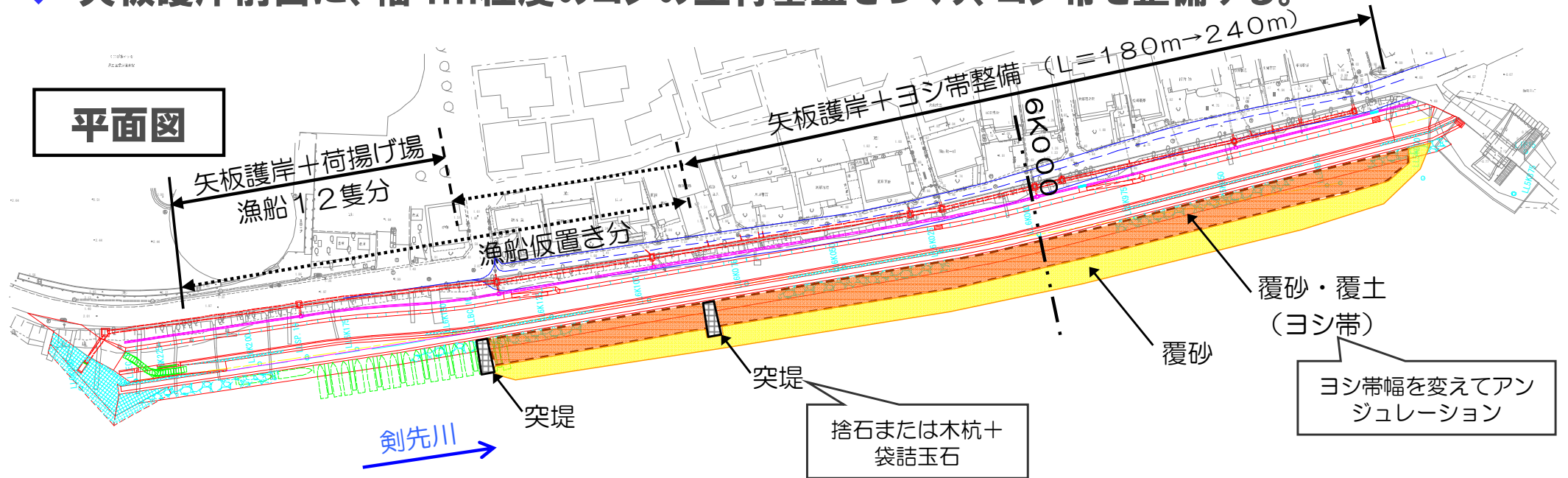
- ▶ ヨシ→土砂基盤ごと移植（①寄州のヨシ帯整備予定箇所、②土砂仮置き場周辺）
- ▶ コアマモ→中海の仮移植場所に移植（揖屋干拓の承水路）
- ▶ オオクグ→大橋川下流部に移植（①中海大井の浅場、②大橋川下流左岸）
- ▶ ヒトハリザトウムシ→個体を採取して移動
（①剣先川左岸の類似場所、②大橋川下流左岸）
- ▶ ムシヤドリカワザンショウガイ→①確認場所周辺のヨシ基盤ごと移植
②個体を採取して移動（中の島のヨシ帯）



- ◆ くにびき大橋上流の寄州の土砂は、剣先川左岸に仮置きする。
- ◆ 剣先川上流の築堤護岸整備で移植が必要となったヨシ帯は、寄州と仮置き場に移動する。



◆ 矢板護岸前面に、幅4m程度のヨシの生育基盤をつくり、ヨシ帯を整備する。

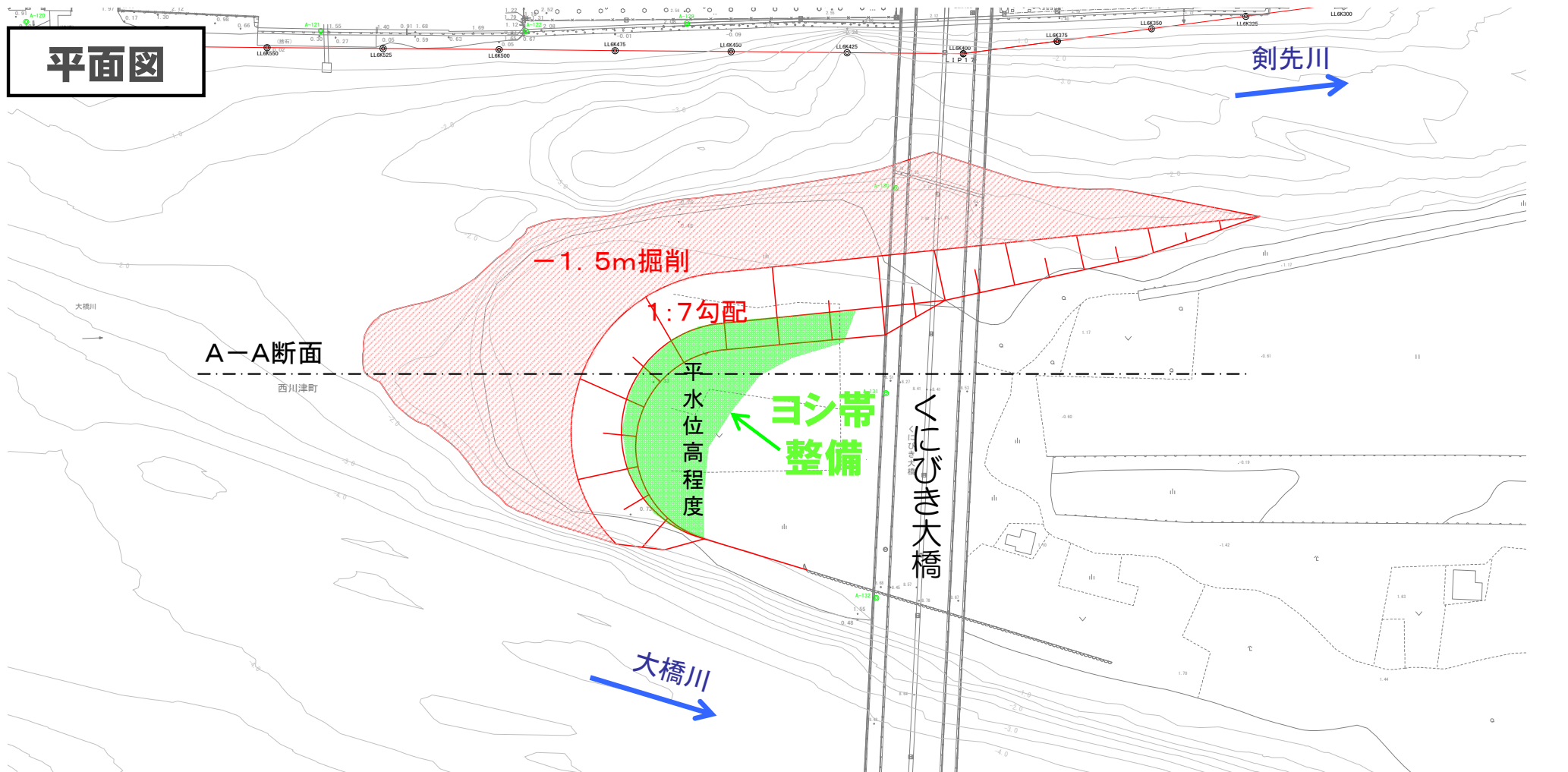


◆ 環境保全措置を実施した場合の剣先川上流部(追子団地)のイメージ

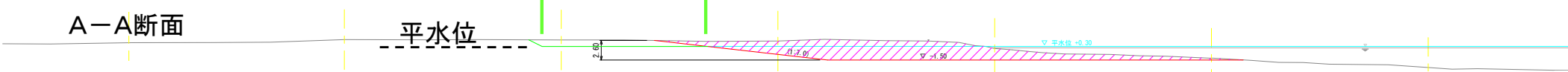


※これはイメージであり、パラペット構造を含め護岸の色彩・素材等については、景観の観点から今後検討する予定である。

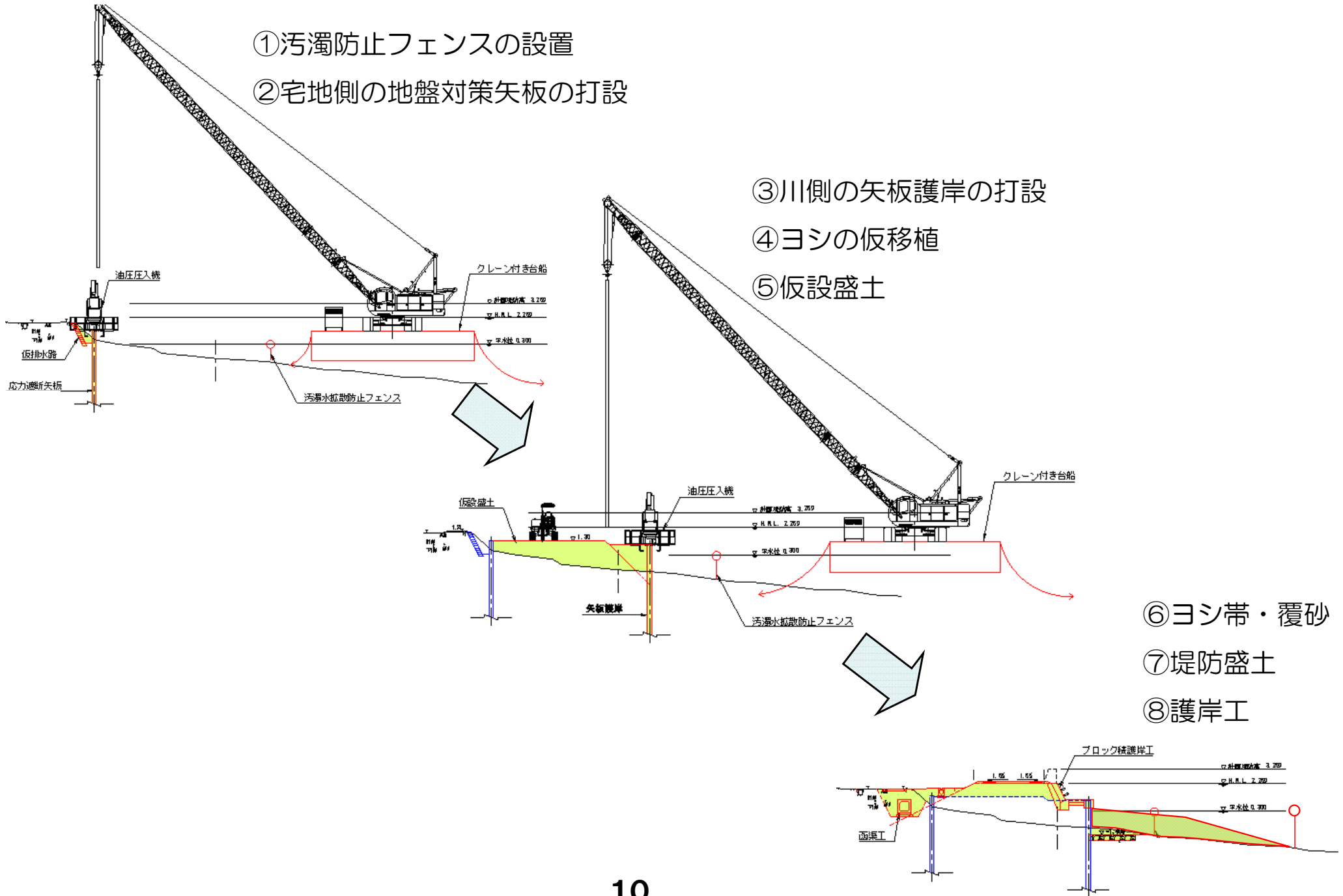
- ◆ 寄州撤去にあわせてヨシ帯を土砂基盤ごと移植する場所を整備する。
- ◆ 基盤はヨシが生育しやすい平水位程度から、水面下までなだらかな勾配ですりつける。



断面図



◆ 剣先川上流部(追子団地)の築堤護岸の施工手順を示す。



- ◆ 施工時の環境対策は、次のとおり行う予定である。

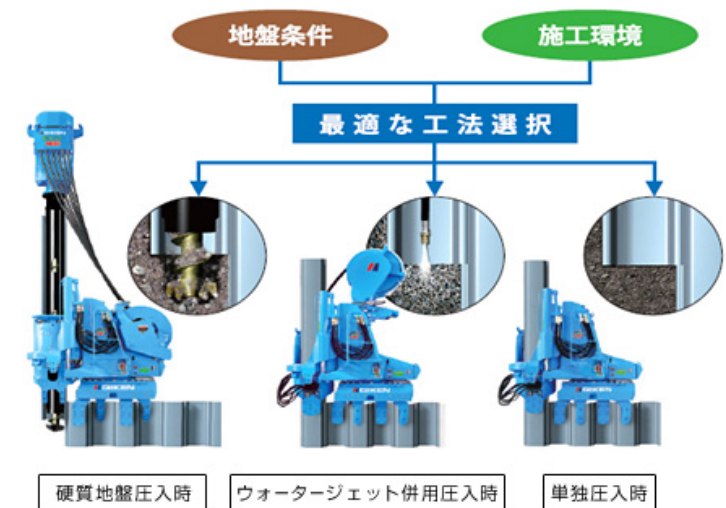
騒音・振動対策

- 無騒音、無振動工法であるサイレントパイラー(油圧式杭圧入機)を使用して矢板を打設する。
- 矢板施工時の騒音対策として、クレーン付き台船に搭載する発電機の周囲に組立式パネル(吸音タイプ)を使用した仮囲いを設置する。
 - 仮囲いによる発生騒音の遮音減衰効果が期待できる。
- 民家に接近した作業では、堤防道路路肩に移動式防音設備を設置する。
 - 発生騒音の遮音減衰による、近接民家への影響低減効果が期待できる。
- 矢板施工箇所の近傍の堤防道路上で騒音・振動測定を実施し記録する。管理値は表のとおりとする。

	標準の規制基準	管理値
騒音	85dB	75dB
振動	75dB	65dB

水質汚濁対策

- 汚濁防止フェンスを掘削等の仮設時に使用し、汚濁防止に努める。また、矢板打ち込み時に河川の汚濁が懸念される場合は、継続して設置する。
- 掘削土は、汚濁防止フェンス内で移動する。



サイレントパイラー(例)